

第 2 号報告

けいはんな学研都市(京都府域)地域公共交通計画策定 概要

1. 「けいはんな学研都市(京都府域)地域公共交通計画」策定の背景・趣旨

- ・ けいはんな学研都市は、関西文化学術研究都市建設促進法の施行から早や 37 年が経過する中で、京都府域の都市建設は約 75% まで進み、多くの研究施設や研究開発型産業施設が集積してきた。また、京都府域ではここ近年、長年未整備であった南田辺・狛田地区や木津東地区の開発に向けて再び動きが出ている。
- ・ そして、法施行から 40 年の節目を目前に、学研都市の次のステージプランの検討を通して、都市建設の概成後の姿を見通す時期に差し掛かっている。
- ・ しかし、本都市の概成に向けて、未だに「公共交通の整備」の課題を抱えている。
- ・ この間、本都市京都府域における道路網については、相当程度整備が進められてきた一方、鉄道網については、JR 奈良線と JR 片町線（学研都市線）については、途中複線化の部分があるものの、学研都市の区域に入った途端、単線となっていること、また、京阪奈新線の延伸や学研地区同士と主要駅を結ぶ公共交通整備についても具体的な実現に向けた検討が進められていない。
- ・ このままでは、学研都市の公共交通については、未整備のまま放置されてしまうのではないかという危機感のもと、学研都市の完成には、残る公共交通の整備が必要不可欠であるとの認識に立ち、学研都市の京都府域エリアを対象にした、「けいはんな学研都市（京都府域）地域公共交通計画」を策定し、学研都市（京都府域）全体の公共交通の将来ビジョンと具体的な施策の方向性を明らかにする。

2. 計画区域

- ・ 本計画の対象となる区域は、けいはんな学研都市の京都府域（原則京田辺市・木津川市の学研都市区域、精華町の全域）を対象とする。

3. 計画期間

- ・ 学研都市建設概成を展望したおよそ 30 年後の将来を見据えつつ令和 7 年度から 16 年度までの 10 年間の計画とする。

4. 当該地域の公共交通の現況・問題点

- ・ 道路網は相当程度進められてきており、地域内の移動は自動車利用が多い。
- ・ JR片町線（学研都市線）、JR奈良線は学研都市の区域に入ると単線区間になってしまう。
- ・ 国の基本方針にも位置付けられている京阪奈新線についても学研奈良登美ヶ丘駅止まりとなっており、延伸計画は進んでいない。
- ・ クラスタ間を結ぶ公共交通や市町界を跨ぐ公共交通は未整備のままである。

5. 目指す交通計画（※以下、現時点のイメージ）

※本計画は、次期学研都市ステージプラン策定に先駆けた公共交通部門の計画としても位置付けたい。

(1) 計画の基本的な方針

- ・ 学研都市の将来にわたる持続可能な都市運営を行うために、サイエンスシティとして学研都市内外との交流・連携を支える快適で利便性の高い地域公共交通の整備を促進する。

(2) 目指すべき地域公共交通の将来像（計画の目標）

- ① 各主要拠点からのアクセスが向上しています。
- ② 乗り換えが少なく学研都市の中心部まで来れます。
- ③ 鉄道ネットワークの中に学研都市群の駅名が明示されています。
- ④ 学研都市内外の主要駅からクラスタ間を結ぶルートが形成され、都市内を縦横無尽に移動ができます。

(3) 施策の基本方針

- ① JR片町線（学研都市線）、JR奈良線の複線化・高速化及び京阪奈新線の整備を行うことにより、母都市からのアクセス向上を図り、都市内外の移動促進と交流を促す。
- ② 府県の行政界を跨ぐクラスタ間接続等（新たな学研地区開発地と主要駅のバス・クラスタ間を結ぶバス）の整備を行うことにより、学研都市内の移動や最寄り駅からの移動を快適にする。

6. 協議会会議の開催スケジュール

設立総会（書面開催） R6.3.25 協議会設立	法定協議会の設置について 予算案について
第1回 R6.5.17（金）午前10時	計画概要について 今後のスケジュール
第2回 R6.9.24（火）午後2時半	現状調査・分析結果（アンケート結果含む）について 公共交通の現況と課題について 今後のスケジュールについて
第3回 R6.12.13（金）午後2時半	計画の基本的な方針 目標（将来像）について 施策体系について 地域公共交通計画（骨子）について パブリックコメントの実施方針について
第4回 R7.2.14（金）午後2時半	計画（最終案）について

7. 策定スケジュール

令和6年6月～7月：住民アンケート・従業員アンケート検討、実施（6月）

令和6年6月：現況調査・分析・課題整理

令和6年5月～令和7年2月：法定協議会（計4回）

事前の事務局会議（計4回）

令和7年1～2月：住民・利用者等の意見の反映（パブリックコメント等）

令和7年1～2月：シンポジウム等開催

令和7年3月：計画策定完了

8. 計画策定の検討内容

関連計画の整理
① 近畿地方交通審議会答申や関西文化学術研究都市の建設に関する諸計画における地域公共交通の整備にかかる既存方針等の整理
② 当該区域に関する京都府及び構成市町の総合計画や都市計画マスタープランほか、地域公共交通に関する諸計画における既存方針等の整理

けいはんな学研都市（京都府域）の地域公共交通の現況調査・分析・課題整理

① 地域公共交通の現況調査。

- ・ JR片町線（学研都市線）、JR奈良線、京阪奈新線のうち近鉄けいはんな線区間（学研奈良登美ヶ丘まで）は鉄道事業者へのヒアリング調査。
- ・ 京阪奈新線の構想路線区間については関係機関（地元自治体及び想定される相互乗り入れ鉄道事業者）へのヒアリング調査。
- ・ 路線バスについては路線バス事業者へのヒアリング調査。
- ・ タクシーについては区域内に営業所等の所在するタクシー事業者へのヒアリング調査などを想定。

② 今後予定されているクラスター開発の現況調査

- ・ 木津地区のうち木津東地区、南田辺・狛田地区のうち南田辺西地区、狛田東地区、狛田西地区を対象とし、それぞれ開発事業者等へのヒアリング調査などを想定。

③ 人口の現況調査及び分析（年齢別人口、産業別就業者人口、将来人口推計）

④ 京都・大阪・奈良の都市間交通における人口流動に関する現況調査及び将来予測

- ・ 国勢調査結果（通勤・通学流動）等の統計データより現状を整理するとともに、各鉄道事業者へのヒアリング調査、学識によるコメントなどを得て一定の予測を立てることを想定。

⑤ 住民の地域公共交通に関するアンケート及び従業員向けアンケート

ア) 住民向けアンケート

住民に対し、配布数は9,000件

（3市町各3,000人無作為抽出者への郵送）を想定

イ) 従業員向けアンケート

当該区域内に立地する企業にお勤めの従業員に対し、アンケートを実施する。

⑥ 学研都市区域への鉄道アクセス及び区域内クラスター間接続等に係る整備に関する調査

- ・ 公表資料、関係主体や学識等のコメント、学研都市の区域内で過去に実施したラストワンマイルの自動運転の社会実証結果や先進事例等を整理するとともに、鉄道アクセス及びクラスター間接続等の手段としての導入について、本業務で策定する「地域公共交通計画」に位置付けることを念頭に、検討することを想定。

その際、次のア～エの観点を盛り込むこととする。

- (ア) 北陸新幹線整備及びリニア中央新幹線の間駅設置
- (イ) 先端的技術を活用した地域公共交通の高度化（自動運転等）
- (ウ) LRT・BRT等の中量輸送システム
- (エ) JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共計画の施策との相乗効果

⑦ 地域公共交通の課題整理

上記調査を踏まえて、特に当該地域の鉄道アクセス及び区域内クラスター間接続等を念頭に課題整理を行う。

その際、次のア～ウの観点盛り込むこととする。

- (ア) 学研都市への鉄道アクセス改善に関する3市町の課題意識（それぞれの自治体内における優先度を含む）を広域的にとらえ、国家プロジェクトとして学研都市建設促進法を活用してどのような施策活用（つくばエクスプレスなども参考）や制度要望が可能かを明らかにする。
- (イ) クラスター間接続等の整備がこれまで進まなかった原因等の分析を行い市町の行政界を越える路線バス等の整備に当たっての障害となる事項などを明らかにする。
- (ウ) 木津川氾濫を想定した浸水区域の鉄道の平面交差解消など、将来的な連続立体交差も課題として列記する。

シンポジウム等啓発イベントの開催

- ・ 当該区域住民に対する地域公共交通の現状と課題、及び整備の必要性に関する啓発を目的としたシンポジウム（1回）の開催
令和7年1～2月頃の開催を想定。